

むつ湾ほたて貝へい死対策に係る陳情

県漁連の本年度ほたて取扱計画では、数量9万トン、金額では100億円見込んでいたが、今春4月頃からむつ湾東部海域を中心に異常貝の発生やへい死が見られ、本年度末の見通しとしては数量で約7万トン(77%)、金額では約72億円(72%)前後まで落ち込むものと予想されている。

このことは、昭和50年以来の異常へい死となり、今後のほたて漁業に大きな影響を及ぼすことになる。

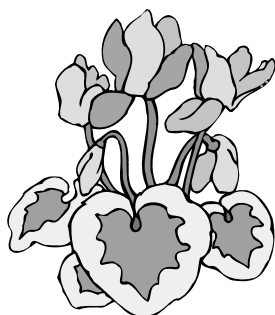
県の増養殖研究所の発表によると、この原因としては3月から4月にかけて発生した暴風・時化により半成貝がぶつかり合ったこと、海底の泥等が巻き上げられ、鰓や外套膜に損傷を負ったことが考えられるとのことであるが、今後のほたて漁業の維持安定を図るため、更に詳細な原因究明に努めると共にほたて漁業者の救済措置を講じていただくよう、県知事に対し業界団体や関係市町村長が陳情を行った。

これを受けて、8月22日に三村県知事は野辺地町漁協、川内町漁協、脇野沢村漁協へ督励巡回を実施した。この中で三村県知事は、このような事態となり、皆さんのところへ伺うことになったのは大変つらいものがあります。

県としては、漁業者皆さんの窮状を重く受け止め、今後の対応を一生懸命やりますので皆さん一緒に頑張りましょう」と激励した。

陳情内容

- 1、ほたて貝へい死の原因究明と漁場環境保全対策について
- 2、制度資金の融資に対する債務保証並びに利子補給について
- 3、産卵母貝となる地まき貝確保のための助成措置について
- 4、ほたて貝特定養殖共済掛金に対する県高上げ補助について
- 5、ほたて貝特定養殖共済金の早期支払について



陳情について回答する三村県知事



へい死対策について陳情する植村県漁連会長